

授業科目名 (講義題目)	企業財務 (コーポレート・ファイナンス)		開講学期 単位数	前期 2単位
担当教員	村藤 功		講義コード	科目区分 対象学生
			17176004	
開講予定日	①4/11 ②4/18 ③4/25 ④5/9 ⑤5/16 ⑥5/23 ⑦5/30 ⑧中間試験6/6 ⑨6/13 ⑩6/20 ⑪6/27 ⑫7/4 ⑬7/11 ⑭7/18 ⑮7/25 ⑯期末試験8/1			
履修条件	なし(簡単な簿記の知識があることが望ましい)。	キーワード	企業財務、コーポレートファイナンス、企業価値、事業価値、NPV、ベータ、CAPM、平均資本コスト、最適資本構成	
全体の教育目標	企業財務の基礎理論を習得し、日本企業における経営企画や財務実務への応用を可能にする。	個別の学習目標	投資基準の理解、企業価値の計算方法、平均資本コストの計算方法、リスクの理解、最適資本構成の考え方の理解等	

授業の概要

- 企業財務の基礎理論の習得
 - 企業財務は、事業価値と投融資からなる企業価値をいかに最大化し、これを支える資本構成をいかに最適化するかを考える学問である。
 - 事業会社においては、事業活動を数字で把握し、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー等財務諸表の実績により現状を把握する一方で、将来のビジョン、財務戦略を中期計画、予算等の将来計画に数字化し、予定と実績を比較しながら戦略の実行を進捗管理することが求められる。
 - このコースでは、財務戦略の観点から見た企業価値評価、リスクと、資金調達、資本構成の最適化を始めとするコーポレート・ファイナンスの基礎理論を一通り理解し、習得することをめざす。
- 企業財務理論の実務への適用
 - 企業財務は、実務への適用を前提とする学問であり、財務理論と実務には、世界中どこへ行っても大きなギャップがある。世界各国には、各国特有の理念、ステークホルダーのプライオリティーの違い、異なる政治経済制度や異なる資本市場、金融市場がある。このため、財務理論の実務への適用に際しては、企業価値や株主価値の低下をもたらさないように注意を要する。
 - 日本の事業会社セクターは、バブル崩壊後の会計ビッグバン、金融ビッグバンを終えて、少子高齢化社会や東アジアの成長に対応するために財務の構造改革に迫られている。財務の構造改革に対応するためには、財務の基礎理論を理解し、実務の場で注意深く適用における問題を解決していく必要がある。このコースでは、グローバル・スタンダードの一般理論を学ぶことを基本としながらもこれに止まらず、理論を現代日本企業実務に適用する場合の主要問題点を確認し、解決方法の選択肢を検討する。

授業の進め方

- 頻度：週に二回で中間試験を含めれば15回の授業を行う。7回目授業終了後に中間試験、全ての授業終了後に最終試験を行う。
- 言語：講義は日本語だがリーディングは英語資料も使用する。
- 授業の進め方
事前に指定されたリーディングマテリアルを読み、宿題をやってくることを前提とする。その回の重要なコンセプトを説明してQ&Aを行い、最後に宿題についてディスカッションを行う。

企業財務を学ぶ最善の方法は、実際のケースや数字を使って計算して結果を出して見ることである。学生は、事前準備の際、自分のパソコンのエクセルや計算機で、実際に計算することが求められる。

教科書および
参考図書

- i) 教科書
- McGrawhill から出版されている Principles of Corporate Finance, Brealey/Myers/Allen (12th edition) を必ず購入すること。こちらをグローバル・スタンダードの教科書として使用する。宿題をするには、BMA のウェブサイトに行つて Student Edition 部分から必要なエクセルスプレッドシートをダウンロードしなければならないことがある。
 - 中央経済社から村藤著の「日本の実務に役立つコーポレート・ファイナンス」を 2006 年 1 月末に出版したので、こちらを日本の企業財務実務のための教科書として使用する。これは QBS の 2006 年時点の授業内容を本にしたものなので授業とはより関係が深い。
- ii) 参考書
- 「事業ポートフォリオの最適化」 中央経済社 村藤 功
 - 「連結財務戦略」 東洋経済新報社、アーサーアンダーセン 村藤 功
 - 「ネットの政府」 同文館、村藤 功
 - 日経 BP 出版センターから上記教科書第 10 版 (Brealey/Myers/Allen の Principles of Corporate Finance) の日本語訳が、コーポレート・ファイナンス (上、下 2 巻:各 6480 円) として出版されている。

試験・成績評
価の方法等

- コースに対する参加と有益な意見のコントリビューション：40%
- 中間試験：30%、最終試験：30%